

災害派遣で宮城県山元町へ

～六カ月の貴重な経験～

財務課税務グループ
八木 真樹



宮城県山元町の被害概要

- 人的被害数(平成24年8月31日現在)
 - 死者632人(遺体未発見の死亡届16人と震災関連死亡16人を含む)
 - ※町内での遺体発見数674人
 - 行方不明者1人(死亡届提出16人を除く)
 - 重傷者9人(救急搬送分)
 - 軽症者81人(救急搬送分)
- 家屋への被害(平成24年10月5日現在)
 - 全壊2217棟(うち流出1013棟)
 - 大規模半壊 534棟
 - 半壊 551棟
 - 一部損壊 1138棟
- 津波浸水区域
 - 浸水範囲面積24km²(総面積64.48km²の37.2%)
 - 推定浸水域にかかる人口8990人(平成23年2月末現在人口の53.8%)
 - 推定浸水域にかかる世帯数2913世帯(平成23年2月末現在世帯数の52.4%)
- エリア別の物的被害の概要
 - 海岸線1kmの範囲 建物等新築の建物が一部残る程度で概ね流出
 - 海岸線1km～1.5kmの範囲 新築の建物等が残存する程度で、ほとんどの建物が流出
 - 海岸線1.5km～4kmの範囲 建物床上2m程度水没
- 応急仮設住宅の入居状況
 - 948世帯 2468人



しかし、海岸へ向かうと町の表情が一変し、10m以上もある瓦礫の山や被災車両の山が幾つも点在し、砂に埋もれた球場や基礎だけになった住宅、被災した小学校の体育館の天井には、くっきりと津波の押し寄せた跡が確認でき、それらを見ていると悲しく切ない気持ちになり、被害の大きさを肌で感じることに、鳥肌が立つほどの恐ろしさを感じました。



△あちこちに点在していた瓦礫の山

3・11山元町では

地元の職員に話を聞く機会があったのですが、震災直後は避難する町民の方の誘導や、水の確保のために浄水場の確認に行っており、町の様子を見たのは次の日の朝だったそうです。

町内を見渡すと「映画のシーンの1コマで、戦闘で破壊された町のように」と想像を絶する光景だった震災直後の町の様子を聞かせてくれました。また、大津波警報発令で避難を広報していた役場職員も津波の犠牲となっており、私の所属していた税務納税課の同僚職員にも家族や親戚、知人を亡くされている方もいることから、心が痛みどう接したら良いのか分かりませんでした。逆に派遣職員の人たちを励まし温かく迎え入れてくださいました。

「チーム山元」一丸となつて

役場庁舎は、海岸より直線で4kmほど山側にあり、津波での被害はありませんでしたが、大きな揺れで三階建ての庁舎にはひびが入り危険なため、庁舎隣にプレハブの仮庁舎を設置して執務を行っていました。

住まいは、山元町には津波被害のため、宿舎が少なく山元町役場から1時間ほど離れた仙台市のアパートから車での通勤となりました。

通勤途中の国道は工事のトラックや出勤する人の車が多く、朝夕の渋滞に巻き込まれることも多々ありました。山元町では税務納税課課税班に配属されました。税務納税課には課税班・納税班の2つのグループがあり、課長を含め

東

日本大震災で被災した宮城県山元町に平成24年7月から6カ月間、派遣されることとなり、初めて新冠町役場以外での勤務を体験することになりました。

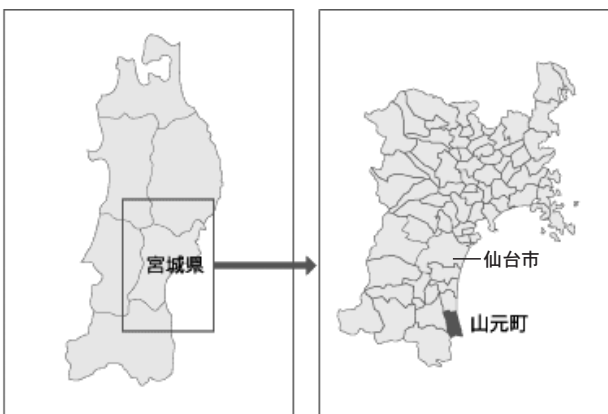
当初は被災地の復興に自分が役に立てるのかなどの仕事への不安や、大きな悲しみを経験され、将来への不安を抱えた地元の人との接し方への不安、新冠に残す家族への不安など心配ばかりで、派遣を言い渡された日の夜は一睡もできなかったことを今でも覚えています。

しかし山元町は、今まさに震災からの復旧復興の真っ最中、復興に向けて前向き頑張っている町民の皆さんや復興のため、苦勞している地元役場職員のため、『山元町を第2のふるさと』と胸に刻み、頑張ろうと決意し新冠をたちました。

東日本大震災被災市町村に対しては、全国の市町村役場から職員の派遣が行われ、山元町では、私を含め50人余りの職員が全国から派遣されました。派遣期間はそれぞれの自治体で相違しており、震災当時は1週間等の短期間の派遣が多く、現在は3カ月～1年間と長期間の派遣が多くなっています。

宮城県山元町(やまもとちょう)

ところで皆さんは、山元町は何処の県で、どの辺りにあるかご存知ですか？



実は私は、聞いたことも見たことも失礼なこと町の名前さえも知りませんでした。

山元町は宮城県最南で福島県との県境にあり、太平洋に面し、最高気温31.1度、最低気温マイナス6.8度と本州では過ごしやすい気候で、面積は64.48km²と、新冠町の共栄と東川を合わせた面積と同じぐらいで、人口は約1万4千人、町の花はツツジ、前浜ではホッキが採れ、イチゴやリンゴの栽培が盛んで、有名な牧場の競走馬トレーニングセンターもあり、新冠町と共通する点が多い町です。実際に山元町へ行ってみると、緑が多く田園が続くので良い町と感じました。

今回の災害派遣を通じて、被災地山元町のための仕事に携われたこと、山元町の方々と全国の自治体職員と交流ができた6カ月間は、私の人生の中でもとても貴重な体験となりました。

山元町の役場職員、住民の方々は明るく、前向きだったのが非常に印象的で、今後同じ空の下で頑張っている人たちを感じられることを幸せなことだと思います。

ただ、最近、山元町や他の被災地についての報道が少なくなっているように感じます。現在は瓦礫などの撤去が進んでいる状況ですが、復興復旧はこれから本格的に始まるうとしています。

東日本大震災の津波被害を風化させないためにも『チーム山元』の一員として、私自身これからも応援していきたいと思っています。

最後に、派遣期間中お世話になった全ての方々に、心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

山元町への寄付金について

- 寄付金く町の災害復旧・復興事業の財源に充てられます
- 振込先 七十七銀行 山下支店
- 口座番号 普通預金 5223539
- 口座名義 宮城県山元町災害復興寄付金 (ミヤギケンヤマモトチョウサイガイフコウキキン)